

「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020」

【作成の趣旨】

養護教諭の実践に求められる力を育成するために養成教育を可視化し、会員校の行う教育の質を高めることを目的に、日本養護教諭養成大学協議会（以下、協議会）独自の「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020（以下、コアカリキュラム）」を作成した。本コアカリキュラムは、文部科学省から提示された新教職課程（2019年4月実施）を参考に、養護教諭養成課程において卒業時に必要な力を明確に示すために、学問や大学の枠をこえて、大きくくり化の方向で考えた。

協議会の会員校は多様な学問体系で養護教諭を養成しており、どの大学でも教育することができるコアカリキュラムを作成するために、各都道府県・政令指定都市の養護教諭の育成指標も見据え、時代の背景を考えながら作成した。

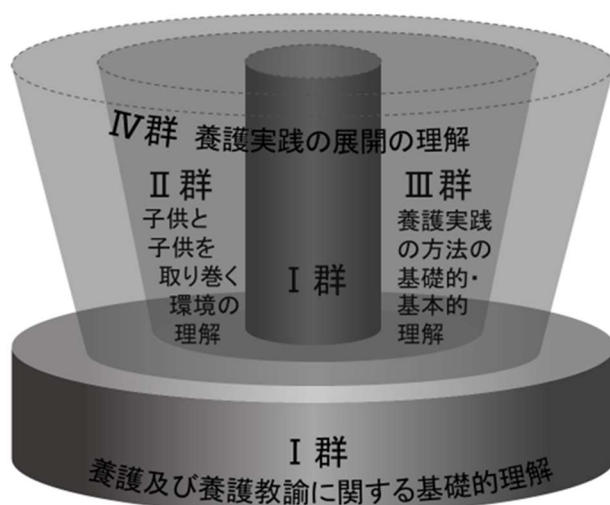
本コアカリキュラムは、これまで行ってきた教育課程（カリキュラム）・養成制度（法制度）検討委員会（以下、検討委員会）の成果と2018・2019年度の養成教育セミナー、2019年12月のワークショップの意見をもとに検討委員会が原案を作成し、役員会で決定したものである。各大学の実情に応じて、工夫しながらこのコアカリキュラムを活用していただきたい。

【目指す養護教諭像、求められる資質・能力】

近年の社会状況の変化を背景として、いじめ・虐待・貧困等の課題が急増するとともに、子供の心身の健康課題も多様化、複雑化している。これらの変化や諸課題に対応し得る、より高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある養護教諭が求められるようになってきている。そこで、理論と実践を統合し、専門的知識・技術を基盤とした実践力をもつ養護教諭を育てるために養成課程の果たす役割は大きい。養護教諭は、学校に置かれる教育職員として、保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営、保健組織活動を行い、学校保健の中核を担っている。

養護教諭には、倫理観・ヒューマニズムを基盤とした専門的知識・技術力が求められる。また、養護教諭には、あらゆる発育・発達段階にある子供の健康課題について科学的根拠を基盤として、的確にアセスメントする力が必要である。実践に当たっては、教育・保健・医療・福祉の視点から、多職種と連携し、家庭や地域機関と組織的に協働することが求められる。さらに、養護教諭は子供が自ら健康課題を解決するための「生きる力」を育むことを目指している。

一方、文部科学省は、2017年に教職課程コアカリキュラムを発表している。本コアカリキュラムは、それに加えて、養護教諭養成課程に求められる資質能力を担保するためのものであり、「養護に関する科目」の内容に焦点化している。ただし、養護教諭に求められる資質・能力は、教員に求められる資質・能力と不可分のため、一部重複している。本コアカリキュラムは、「養護教諭の専門性に関わる能力」を育成する教育内容として、Ⅰ群「養護及び養護教諭に関する基礎的理解」、Ⅱ群「子供と子供を取り巻く環境の理解」、Ⅲ群「養護実践の方法の基礎的・基本的理解」、Ⅳ群「養護実践の展開の理解」と考え、イメージ図のように、Ⅰ群を土台に、Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ群へ深まっていくという理念で構成した。



「養護教諭養成課程コアカリキュラム（養大協版）2020」イメージ図

【I群】養護及び養護教諭に関する基礎的理解

全体目標

学校保健活動の中核的な役割を果たすための養護教諭の専門性を理解する。また、養護をつかさどるための基礎的・基本的事項について理解する。

一般目標	到達目標
1) 養護の概念、養護教諭の役割と職務内容を理解する。	①養護の概念について理解している。
	②養護教諭の歴史や制度（関係法規を含む）について理解している。
	③養護教諭の職業倫理について理解している。
	④養護教諭の役割や職務内容について理解している。
	⑤養護実践※の意義について理解している。
	⑥養護教諭のキャリア形成について理解している。
2) 子供の人権、発育・発達観、健康観に関する基礎的・基本的事項を理解する。	①人権とその擁護について理解している。
	②子供の人権保障について理解している。
	③発育・発達の考え方について理解している。 *教職課程コアカリキュラムにおける「幼児、児童及び生徒の心身の発達過程」との関連性を考慮すること
	④健康及びヘルスプロモーションの考え方について理解している。
	⑤学校教育における子供の発育・発達及び健康への支援と生涯保健との関連を理解している。 *教職課程コアカリキュラムにおける「幼児、児童及び生徒の学習の過程」との関係性を考慮すること
	⑥社会や学校における多様性について理解している。 *教職課程コアカリキュラムにおける「教育に関する社会的事項」との関連性を考慮すること
3) 学校保健・学校安全の基礎的・基本的事項を理解する。	①学校保健の意義及び領域と構造について理解している。
	②学校保健計画の意義と内容について理解している。
	③学校安全の意義及び領域と構造について理解している。 *教職課程コアカリキュラムにおける「学校安全への対応」との関係性を考慮すること
	④チームとしての学校における組織活動の意義について理解している。 *教職課程コアカリキュラムにおける「チーム学校運営への対応」との関係性を考慮すること
	⑤学校と家庭及び地域との連携・協働の意義、コーディネーターとしての役割について理解している。 *教職課程コアカリキュラムにおける「学校と地域との連携」との関係性を考慮すること
	⑥保健室経営の意義と養護教諭の専門性について理解している。

<※養護実践とは>

養護実践とは、児童生徒等の心身の健康の保持増進によって発育・発達の支援を行うために、養護教諭が目的を持って意図的に行う教育活動である。養護教諭の専門性を生かしたあらゆる活動は「養護活動」とも言われ、その中でも特に、目的意識を持って意図的に対象に働きかける教育活動を「養護実践」という。

(日本養護教諭教育学会 養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第三版>より)

【Ⅱ群】子供と子供を取り巻く環境の理解

全体目標

養護実践を進めるに当たり、発育・発達過程にある子供の心身の構造と機能、健康課題、病態の特徴を理解する。また、子供を取り巻く環境について理解する。

一般目標	到達目標
1) 心身の構造と機能及び発達過程について理解する。	①命を生むしくみ（人体の発生と遺伝、生殖系器官の構造と機能）と発達過程について理解している。
	②命を維持するしくみ（呼吸、循環、代謝やホメオスターシスなどに関わる器官の構造と機能）と発達過程について理解している。
	③身体を支えて動くしくみ（骨格、筋肉と神経系などの器官の構造と機能）と発達過程について理解している。
	④情報の受容と処理のしくみ（感覚器と神経系などの構造と機能）と発達過程について理解している。
	⑤高次脳機能のしくみ（脳の構造と認知や行動などの機能）と発達過程について理解している。
	⑥身体を防御し適応するしくみ（内分泌、免疫、神経系などの器官の構造と機能）と発達過程について理解している。
2) ライフステージ各期の心身の発育・発達の特徴及び健康課題と疾病の特徴について理解する。	①ライフステージと発育・発達過程について理解している。
	②子供に起こりやすい傷病について、その成り立ちや治療法について理解している。
	③乳幼児期の心身の発育・発達の特徴、健康課題と疾病の特徴について理解している。
	④児童期の心身の発育・発達の特徴、健康課題と疾病の特徴について理解している。
	⑤青年期の心身の発育・発達の特徴、健康課題と疾病の特徴について理解している。
	⑥成年期以降の心身の発達・加齢性変化の特徴、健康課題と疾病の特徴について理解している。
3) 子供の生活や取り巻く環境と健康との関わりについて理解する。	①個人の生活（栄養、運動、休養など）と健康との関わりについて理解している。
	②子供の健康と家庭との関わりについて理解している。
	③健康の決定要因（物理的・化学的・生物学的・社会経済的環境など）について理解している。
	④地域の教育、保健、医療、福祉などの関係機関について理解している。
4) 発達過程に応じた子供の支援について理解する。	①身体の構造や機能の課題から支援を必要とする子供とその発達過程に応じた支援方法について理解している。
	②心理的、精神的な課題から支援を必要とする子供とその発達過程に応じた支援方法について理解している。
	③社会的支援（養育環境など）を必要とする子供とその発達過程に応じた支援方法について理解している。

【Ⅲ群】養護実践の方法の基礎的・基本的理解

全体目標

養護実践を展開するために必要な知識と方法を理解する。また、基礎的な技術を身に付ける。

一般目標	到達目標
1) 学校保健の意義をふまえた上で、学校保健計画作成の方法を理解する。	①学校経営計画と教育課程、学校保健計画及び保健室経営計画が関連するように立案することの重要性を理解している。
	②学校保健計画を立案する方法を説明することができる。
2) 保健室経営の意義と目的をふまえた上で、保健室経営計画の作成方法を理解する。	①保健室経営における養護実践のプロセスを理解している。
	②保健室経営計画の作成や評価について、内容と方法（疫学や統計を含む）を理解している。
	③保健室の健康情報センターとしての役割を理解し、保健室経営について説明することができる。
3) 保健管理の意義と目的をふまえた上で、その内容と方法を理解する。	①健康観察の内容と方法について理解し、その基礎的な技術を身に付けている。
	②健康診断の内容と方法について理解し、その基礎的な技術を身に付けている。
	③疾病の予防と管理に関する内容と方法について理解し、その基礎的な技術を身に付けている。
	④感染症対策に関する内容と方法について理解し、その基礎的な技術を身に付けている。
	⑤救急処置の内容と方法について理解し、その基礎的な技術を身に付けている。
	⑥学校環境衛生の内容と方法について理解し、その基礎的な技術を身に付けている。
4) 健康相談・保健指導の意義と目的をふまえた上で、子供と保護者への対応方法を理解する。	①健康相談・健康相談活動の内容と方法について理解し、基礎的な技術を身に付けている。
	②保健指導の内容と方法について理解し、基礎的な技術を身に付けている。
	③子供の健康課題を把握し、解決に向けた支援・指導及び助言に関する内容と方法を理解している。
5) 保健教育の意義と目的をふまえた上で、その内容と指導方法を理解する。	①学習指導要領に示された各教科等の保健に関する内容と指導方法を理解している。
	②子供の生涯にわたる健康の保持増進に必要な保健教育の内容と指導方法及びその評価について理解している。
6) 保健組織活動の意義と目的をふまえた上で、その内容と連携・協働の方法を理解する。	①チームとしての学校における連携・協働の方法を理解している。 *教職課程コアカリキュラムにおける「チーム学校運営への対応」との関係性を考慮すること
	②家庭や地域の関係機関との連携・協働の方法を理解している。
	③学校保健委員会等の保健組織活動を活性化する方法について理解している。
7) 学校安全・危機管理の意義と目的をふまえた上で、その内容と方法を理解する。	①学校安全、危機管理に関する内容と方法を理解している。
	① 事故、事件や災害発生等の緊急時の対応・体制について理解している。

【IV群】養護実践の展開の理解

全体目標

子供の実態に応じて、必要な知識、方法及び技術を統合して、養護実践を計画、実施、評価、改善するための能力を身につける。

一般目標	到達目標
1) 子供の心身に関する情報の収集と管理を行い、関係者と情報共有する意義と方法を説明できる。	①子供の心身の情報を収集し、管理、共有する方法を説明することができる。
	②子供に共感的態度でかかわり、心身の情報等から子供の健康状態を把握することができる。
	③子供の心身の状況や背景、子供を取り巻く環境における課題を関係者と共有することができる。
2) 子供の心身の状態を根拠に基づいて総合的に評価し対応できる。	①心身の状態を総合的に評価し、緊急度・重症度を踏まえて対応することができる。
	②判断や対応の根拠となる資料を作成することができる。
	③個及び集団としての子供の心身の健康課題を、背景や影響する要因を踏まえて説明することができる。
3) 子供の心身の健康課題に応じて必要な指導や支援の計画を立案することができる。	①子供の健康課題や発達の課題に応じた個別の支援計画を立案することができる。
	②必要な指導や支援の計画を関係者と協議し、役割を調整する方法を説明することができる。
	③個別の支援計画の修正や改善の時期や内容を評価することができる。
4) 対応する場面を想定し、関係者と連携・協働して指導や支援を展開できる。	①子供の健康課題に応じた対応について説明することができる。
	②関係者と連携・協働して取り組む活動の内容と方法を説明することができる。
	③人権やプライバシーに配慮した健康相談や保健指導の場面や方法を列挙することができる。
	④保健教育を推進するために働きかける対象や内容及び方法を説明することができる。
5) 養護実践と学校保健及び学校教育の関係を理解する。	①学校保健目標、保健室経営目標と養護実践の関係を説明することができる。
	②学校全体の保健管理及び保健教育を評価・改善するプロセスを理解し、説明することができる。
6) 養護教諭としての専門性を向上させる方法及び研究の必要性を理解する。	①観察した子供の状態、対応、保健指導等の内容を記録することができる。
	②自らの養護実践を評価し、改善する方法を説明することができる。
	③自らの養護教諭としての資質・能力を省察し、養護観を追究し、自己研鑽する内容と方法を説明することができる。
	④養護実践を研究する意義と方法を説明することができる。
	⑤養護学を構築することの重要性を理解している。